

2017年9月28日

報道関係各位

GMOクラウド株式会社

「IoTの窓口 byGMO」が開発した「スマート電子タグ」をトーハンに提供 お客様の行動を感知しデータ取得・蓄積できる『次世代型電子POP』 八重洲ブックセンター本店で実証実験開始

GMOインターネットグループのGMOクラウド株式会社（代表取締役社長：青山 満 以下、GMOクラウド）は、企業のIoTビジネス化をサポートする「IoTの窓口 byGMO」（URL：<https://www.iotnomadoguchi.com/>）が開発した「スマート電子タグ」を、株式会社トーハン（代表取締役社長：藤井 武彦 以下、トーハン）の“書店×IoT”の取り組みに『次世代型電子POP^(※1)』として提供いたしました。

『次世代型電子POP』は、インターネットを通じて遠隔で表示内容の切り替えができるほか、搭載されたセンサーが店頭のお客様の行動を感知し、そのデータを取得・蓄積できる新しいPOPです。本日2017年9月28日（木）より、東京駅八重洲口の「八重洲ブックセンター 本店」において、『次世代型電子POP』を活用した実証実験を開始いたしました。

(※1) POPとは、Point of purchase advertising の略語で、主に店頭に設置される販売促進のための広告のこと。

【『次世代型電子POP』について】

～「IoTの窓口 byGMO」独自開発、「スマート電子タグ」を活用～

昨今では、電子タグ^(※2)とモニターを活用した店頭の値札や、電子化したPOPが各地で見受けられるようになってきました。しかし、従来の電子POPに使用されている電子タグは、専用端末でしか情報の更新ができないものが一般的です。また、電子POPを見たお客様の情報や動向などのデータを収集したい場合には、別途センサーの設置・組み込みが必要となり、導入は容易ではありません。

「IoTの窓口 byGMO」は、こうした課題をIoTで解決するべく、Webブラウザ上からインターネットを通じて情報（表示内容）を一括更新でき、さらにお客様の行動を感知しデータとして取得するセンサーを搭載した「スマート電子タグ」を開発しております。

一方、トーハンにおいても、書店にITの最新技術を導入する取り組みが始められており、その取り組みの1つ“書店×IoT”として、「IoTの窓口 byGMO」において、「スマート電子タグ」を使った『次世代型電子POP』を開発する運びとなりました。

『次世代型電子POP』には、紙のような携帯性を持ちながら、柔軟に表示内容を書き換えられるディスプレイ“電子ペーパー（E-paper）”を採用したほか、GMOグローバルサイン株式会社（以下、GMOグローバルサイン）の電子証明書による暗号化を行い、世界最大級の半導体設計会社ARM社製の技術を基盤としたICチップを搭載しており、セキュリティ面も考慮しています。

(※2) 電子タグとは、データを記録できるICチップと、通信機能を備えた小型の電子装置のこと。

■ 「スマート電子タグ」詳細 URL：<https://www.iotnomadoguchi.com/case/case10.html>

【『次世代型電子 POP』の実証実験について】

トーハンでは、書店に IT の最新技術を導入する取り組みを行っており、その 1 つとして本日から『次世代型電子 POP』を活用した実証実験を、東京駅の「八重洲ブックセンター本店」の店頭において開始いたしました。

＜実証実験のポイント＞

本実証実験では、書店の売場の複数箇所に『次世代型電子 POP』を設置し、表示内容を動的に切り替えて表示させます。表示内容を 1 日ごとに変化させることで、お客様へ 1 つの情報だけでなく、様々な情報を訴求することが可能です。また、搭載されたセンサーを通じてお客様が売場で本を手にとる「ピックアップカウント行動」や、滞在時間をデータとして収集することができます。これにより、時間帯によって「どの売場に人が多いか」「どの商品が手に取られているか」といった観点でデータを分析し、マーケティングに活用することが可能になります。

◎実証実験の様子



■株式会社トーハンについて

出版業界の流通の要として、仕入・配本、配送から代金回収、支払い、さらには各種データの活用など、多岐にわたる機能を果たしています。出版社と書店・コンビニエンスストア、そして読者を結ぶ情報・流通のネットワークを担う企業として発展し、出版物のみならず文具や雑貨など取扱商品を拡大させ、出版総合商社として事業展開を図っています。

【『IoT の窓口 byGMO』とは】 (URL : <https://www.iotnomadoguchi.com/>)

「IoT の窓口 byGMO」では、企業が抱えるビジネス課題に対して、IoT を活用してどのように解決できるかを、GMO クラウドの IoT コンサルタントがご提案します。構想段階から、新しい仕組み (システム) の企画・開発、製品・サービス化までひとつの窓口で対応することで、企業の IoT ビジネス化をトータルで支援いたします。

■『IoT の窓口 byGMO』の 5 つの強み

1) IoT コンサルタントが何度でも無料でアドバイス

GMO クラウドの IoT コンサルタントが、企業が抱える問題点や課題をヒアリングし、解決に向けて無料でコンサルティングいたします (※3)。

2) 技術支援から製品化・サービス化までひとつの窓口で

IoT 製品に必要な技術のご提案から開発、その製品・サービス化までワンストップで提供いたします。

3) 豊富なパートナー企業との連携でスピード開発

IoT 製品はデバイス・センサー・通信・クラウド・セキュリティなど複数の要素で構成されています。「IoT の窓口 byGMO」では、各要素を担うパートナー企業と運営して開発を行うため、1つの規格に縛られることなく、柔軟な仕様を最短で開発します。

4) IoT に欠かせない強固なセキュリティを実装可能

GMO グローバルサインの電子証明書発行システムを利用可能です。1秒間に3,000枚という大量発行が可能のため、IoT製品に求められる柔軟性や量的ニーズに対応し、セキュアなIoT環境を構築できます。

5) 成長著しいIoT産業への貢献で、IoT企業トップ50社に選定

「IoTの窓口 byGMO」は、GMOグローバルサインと連携してIoT製品の開発・サービス化に取り組んでいます。GMOグローバルサインは米国のニュースサイトCRNが選ぶ「IoT企業トップ50社」を受賞。成長著しいIoT産業への貢献が評価され、「IoTセキュリティ企業5社」にも選ばれています。^(※4)

(※3) 相談・企画は無料、開発費用および各サービスの利用料金などは別途お見積りで発生いたします。

(※4) 参考URL：https://ir.gmocloud.com/news/info/161209_2678.html

【GMOクラウド株式会社とは】

1996年のサービス開始以来、ホスティング事業者として13万を超える法人のお客様のサーバー運用実績と国内およそ6,700社の販売代理店を有しています。2011年2月にクラウドソリューション「GMOクラウド」を立ち上げクラウドサービス事業に本格的に参入して以降、クラウド事業に軸を置いて国内のみならず世界へ向けてサービスを展開し、グローバル企業を含む多くの企業に最適なITインフラを提供しております。

現在ではIoT事業を立ち上げ、自動車向けIoTソリューション開発や、無料コンサルティングでIoTビジネスの実現を支援する「IoTの窓口 byGMO」を提供しております。

また、2007年より「GlobalSign」の電子認証サービスを連結会社のGMOグローバルサイン株式会社を中心にベルギー、英国、米国、中国、シンガポール、フィリピン、インド、ロシア、ドバイの拠点よりグローバルに展開しております。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

- GMOクラウド株式会社 社長室 広報担当 遠藤・松下 ●GMOインターネット株式会社 グループ広報・IR部
TEL：03-6415-6100 FAX：03-6415-6101 石井・島田
E-mail：pr@gmocloud.com TEL：03-5456-2695 E-mail：pr@gmo.jp

【GMOクラウド株式会社】 (URL：<https://ir.gmocloud.com/>)

会社名	GMOクラウド株式会社 (東証第一部 証券コード：3788)
所在地	東京都渋谷区桜丘町26番1号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役社長 青山 満
事業内容	■クラウド・ホスティング事業 ■セキュリティ事業 ■ソリューション事業
資本金	9億1,690万円

【GMOインターネット株式会社】 (URL：<https://www.gmo.jp/>)

会社名	GMOインターネット株式会社 (東証第一部 証券コード：9449)
所在地	東京都渋谷区桜丘町26番1号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役会長兼社長・グループ代表 熊谷 正寿
事業内容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業 ■モバイルエンターテインメント事業
資本金	50億円

※記載されている会社名、製品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。

Copyright (C) 2017 GMO CLOUD K. K. All Rights Reserved.